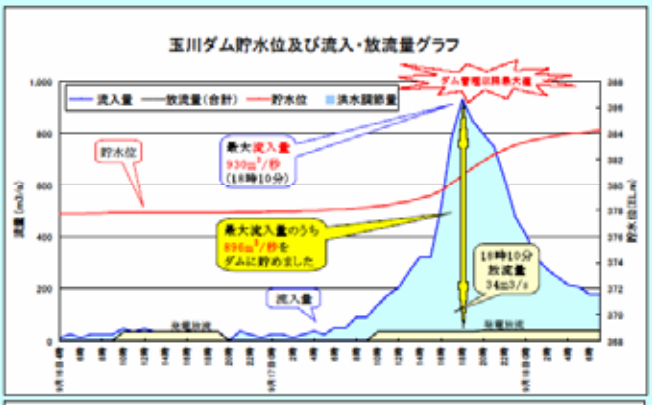
玉川ダムの
浸水被害軽減効果

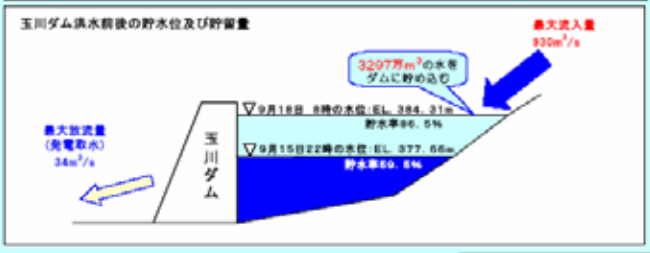
今回の洪水では、玉川ダムへの流入量が平成3年4月の管理以降、最大の約930m³/sを記録した。これに対し、玉川ダムでは、流入量のほぼ全量をダムに貯留し、下流河川の洪水被害の軽減に効果を発揮した。

大仙市鑓見内地内の玉川左岸においては、現況堤防高とほぼ同じ高さまで水位が上昇した。玉川ダムが無かった場合には、この地点の水位がさらに上昇し、約200ha、約160戸の浸水被害が発生したものと推測される。また、この推測される浸水範囲には国道105号やJR秋田新幹線があり、浸水による通行止め等、地域社会に大きな影響を与えた可能性がある。



玉川ダム流域面積	287 km²
雄物川流域面積に占める割合	6.1%
玉川流域面積に占める割合	23.5%







玉川左岸(大仙市鑓見内地先)の水位状況



